

2016年度 事業報告書

2016年度、フェアトレード・ラベル・ジャパン(FLJ)では、継続的な重点テーマとして、「フェアトレード勉強会の促進」「ネットワーク加速」「組織基盤強化」を掲げて、国際フェアトレード認証ラベル・認証製品の普及推進に取り組んだ。

特に組織基盤強化では、社会から、より信頼・支持される組織として、認定NPO法人化を目指している。そのために組織支援者の獲得にも注力した。

1. 認証・ライセンス事業

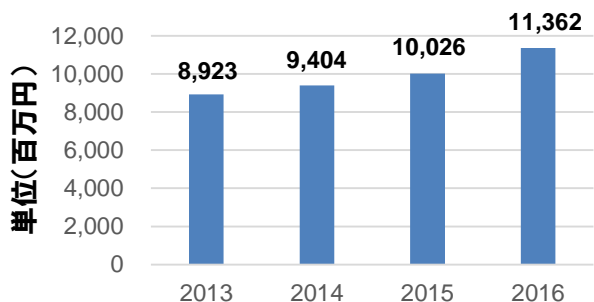
1-1 市場動向概況

2016年(1月～12月)国内の国際フェアトレード認証製品市場規模は推定で113億6千万円(前年比113%)。FLJが注力してきた社内勉強会の実施や企業・団体間ネットワークでの連携策を通じて、各社が製品数・取扱産品カテゴリーや販売先を増やしたり、キャンペーンを展開するなど、積極的な販売促進に繋がった結果、特に、コーヒー(販売重量ベース対前年比115.7%)、カカオ(126.8%)、コットン(127.6%)が大きく伸長した。

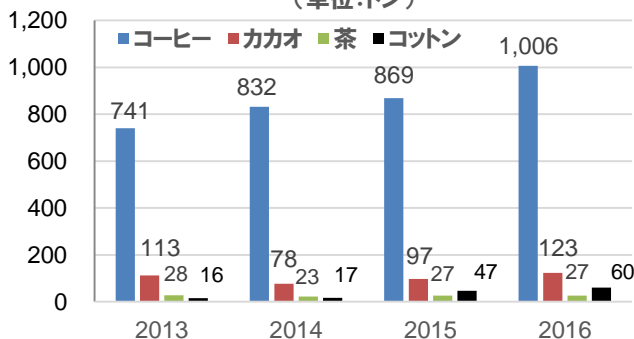
FY2016 市場拡大への活動テーマ



国内の国際フェアトレード認証製品
推定市場規模推移



国際フェアトレード認証産品 国内販売数量推移
(単位:トン)



(コーヒーは焙煎豆ベースの数量、カカオは生豆ベースの数量)

(2017年3月31日時点)	2016年度	2015年度	前年度対比
フェアトレード参加組織数(※1)	179	178	100.5%
ライセンシー数(※2)	60	54	111%

(※1) FLJ認証組織(輸入、製造、卸、ライセンシー)、FLOCERT認証組織、製造受託組織、海外完成品輸入組織等
(※2) 最終製品の販売者・ブランドオーナー

※この1-2年の傾向として、個人事業主、小規模事業(年間事業規模が1億円以内)の方々から、多数、認証参加への問い合わせを受けている。その際、事務局では、取組みの背景や経緯のヒヤリングを行い、以下の様に、主な理由を把握している。

- ・ フェアトレードへの関心・共感から、グローバルで広がる仕組みに参加できるから
- ・ 自らの生産地への訪問機会は限られるなか、わずかでも現地の状況やプレミアムの効果を知れる
- ・ 公共調達での取引や大手企業、百貨店、ホテルなど販路拡大への期待
- ・ トренд(潮流)と、ライフスタイル提案として

対象産品カテゴリーも多様になり、裾野の広がりを強く実感する。(課題となる事務局の実務対応力は、少数精鋭でITインフラ整備やマニュアル化、システム化で継続的に強化している。)

1-2 新規認証取得組織

組織名	役割	産品
株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ	小規模ライセンスから製造・卸、ライセンスへ変更	繊維
石光商事株式会社	ライセンスとしての認証追加	茶: スパイス・ハーブ、ハーブティー
株式会社立花商店	ライセンスとしての認証追加	カカオ
株式会社ライフスタイルデザイン	小規模ライセンス	繊維
ココナッツキュア株式会社	小規模ライセンス	オイルシード・油脂果実

1-3 主なマーケットの動き

4月	日本生活協同組合連合会	セネガル産フェアトレード認証コットンを使用したレディース衣料品発売 (Tシャツ、チュニック、カーデガン、ガウチョパンツ等)	
	ラボテック株式会社	ケニア産紅茶とマラウイ産砂糖を使用した「ケニア紅茶のど飴」発売	
5月	JUNグループ	ロベピクニック、Visより、インド産オーガニック認証&フェアトレード認証コットンを素材にしたレディースとキッズ商品を全国店舗で一斉販売	
	わかちあいプロジェクト	マラウイ産砂糖を使用したミルクジェラート発売	
6月	株式会社NTTデータ	株主総会の手土産用にフェアトレードオリジナルケーキを商品開発	
7月	わかちあいプロジェクト	マラウイ産フェアトレード認証砂糖使用サイダー発売(熊本支援金つき)	
	石光商事株式会社	ロンドンティーカンパニーシリーズ発売 (ダージリン、アールグレイ、ルイボス等10製品)	
8月	株式会社立花商店	ガーナ産フェアトレード認証カカオ使用業務用チョコレート「スマイルカカオチョコレート」発売	
9月	イオントップバリュ株式会社	フェアトレード調達プログラム参加商品として、2商品発売	
10月	株式会社キャメル珈琲	10/11-11/3 全国KALDI店舗で「フェアトレードキャンペーン」展開に合わせフェアトレード認証チョコレート2種発売	
	株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ	障がい者アート支援団体「ARTBILITY+」とのコラボ商品発売 (Tシャツ、トートバッグ、ポーチ、今治タオルなど)	
11月	株式会社アートコーヒー	大日本印刷との共同企画製品 「ドリップバッグ ART9 インドネシア フェアトレード」発売	
	イオントップバリュ株式会社	フェアトレード認証砂糖使用 ジャム6種発売 (アプリコット、ラズベリー、ブルーベリーなど)	
	UCC上島珈琲株式会社	業務用製品UCC ECO-GREEN発売 フェアトレード・有機・バードフレンドリのトリプル認証製品	
2月	ホットマン株式会社	セネガル産フェアトレード認証コットン使用したタオル新製品発売 (バスタオル、ハンドタオル、ポケットタオル)	

1-4 ステークホルダーとのコミュニケーション促進・ネットワーク構築

●フェアトレード社内勉強会： 計97回実施

フェアトレードへの理解を深めて、国際フェアトレード認証のしくみや基準、そのインパクト、企業や団体が積極的にフェアトレードへ取り組む意義などを伝えるため、通年を通じて企業でのフェアトレード勉強会を実施。その結果、フェアトレード認証製品の販売促進などに繋がっている。

● 第9回ステークホルダー会合開催（7月20日）

国際フェアトレード認証製品取扱い企業・団体や認証参加を検討中の方々が一堂に会する場として、年に一度開催する「ステークホルダー会合」。2016年7月20日「第9回ステークホルダー会合」を開催し、52社、97名が参加。企画立案、会場提供、当日の運営等では、大日本印刷株式会社より協力を得て、同社との共催で開催。

ゲストスピーカーに、株式会社ビデオリサーチひと研究所の石倉裕大氏をお招きし、フェアトレード関心層が集中する若年層の価値観や行動の解説と、それらを踏まえた若者と企業との接点構築のヒントを共有。



また、参加企業による事例発表では、フェアトレード製品の企画・販売の成功事例や課題を共有しながら、今後のフェアトレード普及活動に向けた情報交換を行った。

*会合の様子は、YouTubeでも視聴可能 <https://www.youtube.com/user/FairtradeLabelJapan>

● 社内販売会の企画・コーディネート： 年間計13回

CSRへ積極的に取り組む企業では、社員へのフェアトレード認知を広めるため、フェアトレード認証製品の販売会を企画。国内の認証取得事業者にもブース出展してもらうなど、企業間連携を促進。



また、SDGsと国際フェアトレード基準の親和性の高さも少しずつ認知が広がり、社内来客用・社員食堂のコーヒーをフェアトレード認証に切り替えるといった取組みが加速している。

● ビジネスセミナー「フェアトレード・コットンセミナー」開催（12月8日）

よりサステナブルな生産に取り組むコットン農園や縫製工場の紹介と、フェアトレード認証取得の意義や理解促進を目的に、ビジネスセミナーを開催。繊維業界、ファッションビジネスに従事する方々を中心に20社・37名が参加。FLJから、フェアトレードの意義、認証の仕組みや具体的な取組み事例の紹介、

インドのコットン生産者と認証工場視察から見たフェアトレードのインパクトを報告。また、ゲストスピーカーにファッションビジネス専門誌、織研新聞社の事業局次長の中村善春氏をお招きし、「エシカル、サステナブルがファッションビジネスを変える」と題して、



ご講演いただいた。このセミナーから、コットンを扱う事業者の方々のフェアトレード認証への関心が高まり、認証取得にも繋がる。次年度以降も認証参加に期待できる。

● 生産者との連携強化

FLJが国内企業とフェアトレードへ参加する生産者との橋渡し役を果たせるよう、2016年度は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカのフェアトレード認証生産者ネットワーク組織との連携を強化。生産者自らが語る「現地の生の声」で、フェアトレードによる生産地インパクトの情報発信、高品質の認証原材料生産者紹介を通し、市場形成を図った。

- ・ Specialty Coffee Association of America (コーヒー展示会) への参加 (4/14-4/17@アトランタ)
- ・ インド・コットン生産者組合・認証工場視察、Fairtrade India・NAPP・FLOCERTとの会議 (10/21-27)
- ・ NAPP主催アジア・コーヒー・フォーラムへの参加 (11/24-25@インドネシア・メダン)
- ・ グアテマラ・コーヒー生産者訪問 & 米国フェアトレード市場視察 (1/31-2/6)



1-5 フェアトレード認証・監査業務

<本年度の監査実施件数>

監査の種類	件数
初回監査	4
更新監査	10
中間監査	18
確認監査	5
非通知監査	1
合計	38件

<認証判定結果>

認証取得・更新(継続)	32件
認証一時停止の警告	6件(*1)

(*1) 「認証一時停止の警告」が出された認証事業者は、その後すべて是正措置が確認され、認証が更新・継続された。

監査で確認された不適合項目は、主に、取引先とのフェアトレード基準遵守に関する書面締結不足や、売買関係書類へのフェアトレード関連項目の記載漏れ、四半期報告書提出の遅れなどで、継続して事業者への基準遵守の指導を徹底していく必要がある。

2. 普及啓発・広報事業

2-1 普及啓発イベント

- 「フェアトレード月間」強化(5月)： 認証・登録組織によるフェアトレードの活動を促進し情報発信
- 学生向けイベントへの協力:FLJの活動への理解を目的に、フェアトレードの意義やインパクトを共有。



フェアトレードセミナー (7/6 @中央大学)



FTSN関東主催 学生交流会 (9/10 @明治大学)

- 「カフェ・喫茶ショー2016」への後援・セミナー講演 (6/14-16 @東京ビッグサイト)
- 逗子市フェアトレードタウン認定式典への協力(認証事業者による認証製品協賛) (7/16)
- 「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」への協賛 (10/1-10/30)

2-2 広報事業・普及啓発サポート活動

- メディア取材対応（年間計52媒体： テレビ2、新聞13、雑誌9、その他28）
- 書籍・教科書・教材への掲載対応（年間計29媒体）
- ウェブサイト、ソーシャルメディアを活用した情報発信（通年）
- ソーシャルグッドプラットフォームgooddoへの参加
- セミナー・シンポジウム等での講演（以下、主な講演実績）
 - ・日本エシカル推進協議会「エシカルに纏わるラベルと認証制度シンポジウム」（5月26日）
 - ・エシカル協会「フェアトレード・コンシェルジュ講座」（6月8日）
 - ・カフェ・喫茶ショー（6月16日 @東京ビッグサイト）
 - ・「Textile Exchange JAPAN DAY -今、求められるサステナブルテキスタイル-」（6月20日）
 - ・オルタナ「第4回 CSRリーダー会議@Tokyo」（7月12日）
 - ・サステナブル・ブランド国際会議「フェアトレードは日本でどこまで成長するか？」（3月9日）



教育機関等に無償提供中のパンフレット
「このTシャツ、なにがちがうの？」



フェアトレード動画教材
「スーパーバナナ パブロ君」
YouTube無償配信中

2-3 教育

小学校の副教材や中学校・高校の英語、社会科、家庭科等、複数の科目で教科書にフェアトレードおよび国際フェアトレード認証ラベルが取り上げられており、教育機関からの教材提供や授業の依頼が、さらに増加している。

- 教育機関からの授業依頼： 明星大学、文化ファッション大学院大学、神奈川県立氷取沢高等学校ほか
- 教育機関（小・中・高、大学）、公的機関、消費者教育機関へのサポート： 教材提供・販売 年間58件

3. ネットワーキング・連携活動

3-1 国内団体との連携・ネットワーク参加

- 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC) -正会員
- 一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム(FTFJ) -正会員
- なんとかしなきゃ！プロジェクト -メンバー団体
- 日本エシカル推進協議会 -会員

- 日本エシカル推進協議会主催「エシカル朝食会」への参加
毎回ゲストスピーカーを囲み、エシカルな朝食を交えながらエシカルへの理解を深めることが目的の朝食会。

フェアトレード認証製品市場の最新動向の発表や、認証製品の紹介、ならびに当日の朝食メニューへのフェアトレード認証食材採用を提案し、各回50名以上の大手企業からの参加者に、フェアトレード食材を味わっていただく機会となっている。



3-2 アドボカシー

- ・ G7伊勢志摩サミットへの提言参加「G7各国はビジネスと人権に対する取り組みの強化を」
- ・ 「東京2020運営計画への連携プラン提案」マルチステークホルダー会議での提言
- ・ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「持続可能性に配慮した調達コード」への提言
- ・ 「中学校学習指導要領案」へのパブリックコメント提出

4. FLJ組織運営

4-1 FLJ組織体制（2017年3月31日現在）

- ・正会員： 個人会員17、団体会員2
- ・サポーター： Web登録サポーター568名、年間サポーター116名、寄付者69名
- ・役員： 理事5名、監事2名
- ・事務局： 職員6名(常勤4/非常勤2)、企業研修生1名、学生インターン3名

● 通常総会開催

日時： 2016年6月11日(土) 13:30～15:30 場所： FLJ事務所

議題： 決議事項 (第1号議案) 2015年度 決算に関する事項
(第2号議案) 2015年度 事業に関する事項

報告事項 2016年度収支予算、2016年度事業計画、新理事紹介

● 理事会運営

・第1回： 2016年6月11日(土) 10:00～12:30

2015年度決算・事業報告書、2016年度予算案・事業計画案、新役員選出、組織基盤強化ほか

・第2回(臨時)： 2016年7月20日(水) 19:00～19:30

理事退任、新理事選出

・第3回： 2016年10月29日(木) 10:00～17:00

2016年度上半期レビュー、インド出張報告、日本フェアトレード・フォーラム認定委員就任依頼ほか

・第4回： 2017年2月25日(土) 10:00～12:30

2016年度収支見込、2017年度予算案・事業戦略、米国&グアテマラ出張報告、認定NPO法人化

4-2 組織基盤強化への取組み

- ・FI共同プロジェクト： 2020年市場拡大中期戦略案の策定と新組織体制構築
- ・理事会強化： ガバナンス強化、専門性強化(企業ネットワーク、ウェブマーケティング)
- ・組織力強化： 認定NPO法人化を目指した支援者獲得

● サポーターとの関係構築

より多くの人たちに応援される組織を目指し、認定NPO法人化にチャレンジ。寄付や年間サポーターへの参加を呼びかけ、2015年度・2016年度の2期で幅広い世代や職業の方々、累計230名からご寄付を得られている。

2017年度認定NPO法人申請予定。



5月14日 サポーター交流会の様子

4-3 内部監査の実施（12月27日）

FLJの認証監査事業が、ISEAL (International Social and Environmental Accreditation and Labelling) が定めるAssurance Code (監査認証プロセスに関する基準)、ならびにISO17065 (製品認証機関の認定) に従って、適切に運用されているか、内部監査を実施。監査から認証判定までの一連の業務が、適切に滞りなく行われていることが確認された。